

南箕輪村の文化財



須恵大形甕（塩ノ井、天伯遺跡出土）

村指定文化財



■十一面観音像 【大泉、勝光寺】

平安前期天台宗の高僧慈覚大師（794～864）の作と伝えられ、村内では最も古いものと考えられる。正全寺・仲仙寺の観音像と一木三体で、大泉の尊像が最初の元材で作られたので姉像であったという。大泉上総も崇拝していたと伝えられる。



おいずみ かさもり
大和泉神社本殿・瘡守稻荷社本殿 【大泉】

大和泉神社本殿は焼失により文政12年（1829）に再建されたもの。立川流宮大工小口直四郎の作で、芸術性高い彫刻が見事である。（写真左）
 瘡守稻荷本殿は、唐破風に千鳥破風の正規の組物がなされ、手のこんだ社殿である。（写真右）



■ **不動明王三体** 【沢尻、恩徳寺】

本尊の不動明王（写真左）は旧領主太田資智の発願により、成田山新勝寺行場不動尊を勧請したものである。江戸中期の仏師不動金兵衛の作である。他の二体は明治35年、伊那市西春近上島法性院の本尊（写真右）と本村神子柴金剛院から法性院に移されたもの（写真中）を勧請したものである。作者不明であるが、いずれも迫力ある出来ばえである。



■十二神将 【神子柴、薬師堂】

十二神将は薬師如来の眷属で薬師如来を敬う者の苦難を除き守る神である。この十二神将は十二支を頭にいただいており、力動感がある。残念ながら一体は失われている。

台の裏に、「文化拾三子九月吉日木曾宮越住加藤喜置作之」と印されている。



■新四国霊場（お四国様）【北殿、松林寺裏】

北殿の有賀嘉吉が、四国八十八ヶ所の霊場参拝が誰でもできるようにと、四国の各札所の本尊を安置したもの。石工は大泉の原此右衛門で、台座の下には嘉吉が各札所から持ち帰った土が入っているという。約10年がかりで嘉永元年（1848）完成した。



■ 三十三観音【南殿、農協倉庫北側】

作者・年代は不明であるが、西国三十三番札所の諸仏を模し並べたもののようである。三十三番まできちんとそろい、できばえもすばらしい石仏である。明治六年「地藏庵」が廃庵になったとき、寄進者の「大國屋」に返されこの地に安置された。



■ 富士塚 【田畑、南箕輪老人ホーム南】

富士信仰は古くからあるが、江戸初期に富士講が生まれ、富士の山霊を祀る浅間信仰と富士登山が次第に盛んとなり、各地方では模造の富士山を築いて登山崇敬の気を味わうようになった。これを富士塚と呼び、村内にただ一つ残ったのがこれである。田畑ほか四ヶ村によって元文5年(1740)に築かれた。

■ 御射山社 【神子柴】

現在の御射山社は前宮か鳥居のあったところといわれ、文政10年(1827)に建てられた石碑と鳥居の礎石と思われるものが残っている。

碑陰によると神社のはじまりは大同4年(809)とあり、古い歴史をもつ。また、その規模もかなりの広さがあったようで、近くに鳥居原・前宮・前宮原などの地字名が残っている。



■大般若経六百巻 【塩ノ井、西光寺】

明治30年（1897）南箕輪村、中箕輪村、手良村の人々から奉納されたもので、木版刷りである。大般若経は大般若波羅密多経の略、玄奘の漢訳600巻、般若波羅の義を説く諸経典を集成したものである。きちんと600巻そろっており貴重なものである。



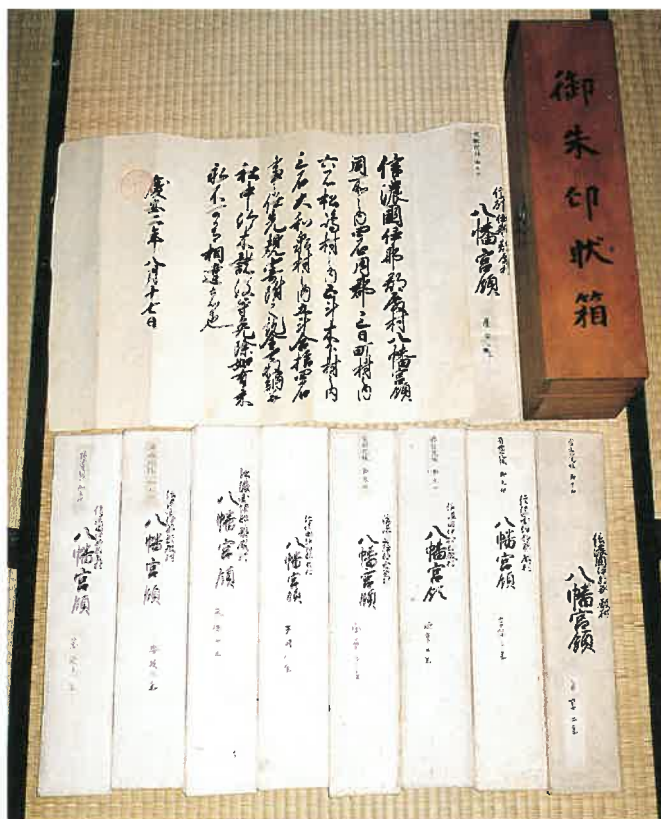
■大宗館文庫 【南殿】

当文庫は、近世年寄株として代々村の重要な地位にあった南殿の有賀家に残された文書等を内容とし、江戸初期から明治にかけての古文書1700余点、和書800余冊、当時の文人墨客や著名人の書画や浮世絵等を多く蔵し、島崎藤村の「夜明け前」の関係資料もあり、貴重な文庫である。

■殿村八幡宮朱印状

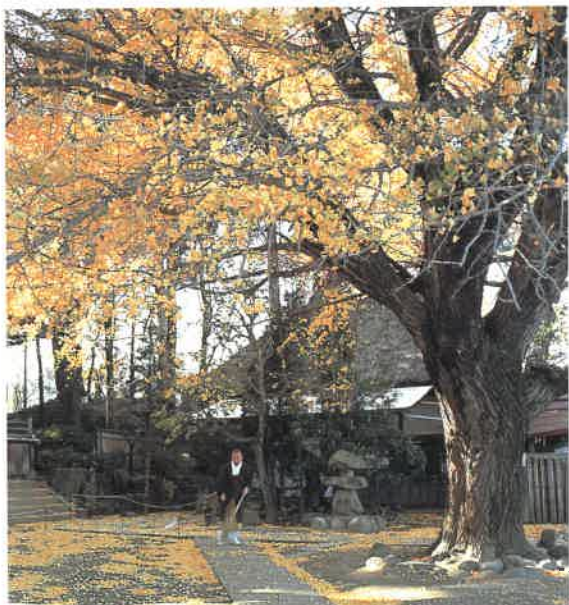
【南殿】【南殿北殿氏神】

朱印状というのは將軍の朱印を押した文書で、これにより所有権の認められた土地は幕府の保護を受けた。殿村八幡宮は慶安2年（1649）から万延元年（1860）までの間、9通受けている。普通は慶応4年（1868）に新政府に全て差し出したはずでどこにも写しだけしかないのだが、この9通はすべて本物である。



■ エドヒガン桜 【北殿、小学校北】

高さ17m、幹の太さ6.5m、樹令約250年と推定される。旧伊那街道筋にあり、根元の所に7基の庚申塔がある。その中の元文5年（1740）銘のものが建てられた際に記念植樹されたものと伝えられている。淡白紅色の花を傘状に咲かせ、開花期には実に見事である。



■ 恩徳寺大銀杏 【沢尻】

推定樹令360年、幹の太さ3.5m、高さ20m、地上3mほどで四方に枝分れし茸状になっており、秋の黄葉は実に見事である。言い伝えによると、恩徳寺の前身薬師堂の時、境内の大銀杏を切り本尊薬師如来を刻んだといわれ、その切り株に生えたのが現在のものであるという。

■ 殿村八幡宮境内樹林帯 【南殿】、【南殿北殿氏神】

樹令数百年をこえる檜・杉・松の常緑樹林である。特に境内参道は、目通り3m余の太さの杉・檜・松等の大樹が両側に並びそびえ、森厳の風に満ちている。社殿南の大杉・東の檜は神木とされている。



■ 鹿踊り 【大泉】

箕輪郷の惣社南宮大明神へ隔年に鹿を奉納する鹿祭りは、永禄元年（1558）ひでりで苦しんでいた住民の切実な雨乞祭りから始まったという。今も大和泉神社に勢ぞろいしたお鹿が、昔からの方式に従って鹿踊りを奉納し、更に公園でも行い、南宮神社へ出向く。

遺跡からの出土品

村内には現在わかっているものだけでも、50余の遺跡がある。また、そこから出土した遺物にも価値の高いものが多い。

7



■ 神子柴型尖頭器・神子柴型石斧

【神子柴、神子柴遺跡出土】

昭和63年6月6日、国の重要文化財に指定され、学術上の基準となる貴重な遺物である。段丘上ローム層（標高730m）から昭和33年～34年に発掘された。旧石器時代末期のものである。

（上伊那郷土館保管展示、林茂樹氏所有）



■ 深鉢型土器・香炉型土器 【大泉、高根地区出土】

深鉢型土器＝口縁部左右に縦の環状把手をつけ、胴部は立体的な隆起線文で飾ってある縄文中期のもので、形の整った優品である。

香炉型土器＝口縁部両側を高くせり上げて飾りとし、全体として洗練された感じを受ける縄文最盛期の立派な小型土器である。（郷土館展示）



■須恵器高坏 【塩ノ井、天伯遺跡出土】

坏の口径19.6cm、高さ8.4cmを測り、器面には自然釉が部分的に吹き出している。高坏は古墳の副葬品として出土することが多いが、ここでは高坏の坏部が住居址から出土しており注目される。(脚の部分は復元したもの) (郷土館展示)



■蔵骨器 【南殿、宮の上遺跡出土】

平安時代中期に骨壺として使われたものである。器高25cm、最大胴径27.9cmの高台付の灰釉陶器短頸壺で東濃産とみられる。器面にはロクロによる整形痕を残し、口縁部から胴中央部にかけて灰釉が施されている。破損箇所のない完形品である。(村指定文化財、郷土館展示)



■須恵大形甕 (壺型土器) 【塩ノ井、天伯遺跡出土】

口径21.2cm、高さ46.7cm、胴径約48.6cmの大形甕である。ろくろを用い、登窯によって高温で焼かれたもので、口縁部内外と胴部の張っている部分に緑色の自然釉がでている優品である。土師器文化の後半、奈良時代のものであろう。(郷土館展示)



■直刀 【久保、丸山遺跡出土】

文久2年(1862)、周囲約108m、高さ6m余の丸山古墳を掘崩し開拓した際に塚の中央から出土したものである。鉄製品で武器として用いられたと思われる。いっしょに滑石製のみごとな子持勾玉も出土している。(倉田友雄氏蔵)

遺跡からの出土品

9



■有孔扁円筒形土製品 【北殿、北垣外遺跡出土】

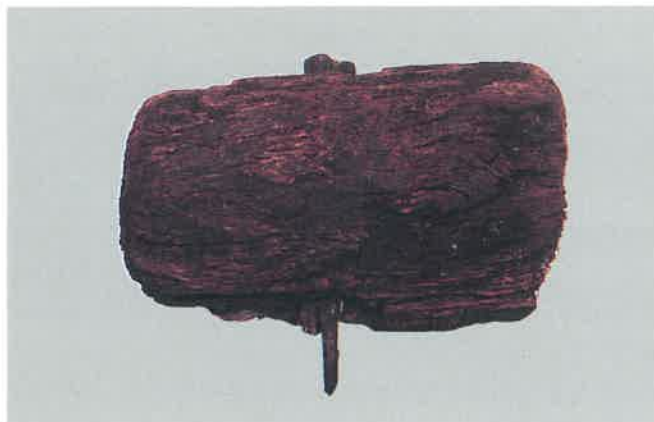
古墳時代に用いられた祭器の一種でカマドの神を祀るためのものとみられている。全長47.5cm、円筒の長径13cm、器厚11mmで、表面に径7mmの穴が直列する形で4つあけられている。

全国的にみても同種類の出土例は稀である。(有賀満氏蔵)

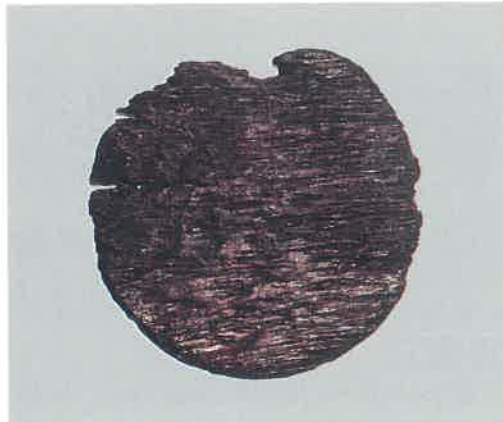


■田 舟 【塩ノ井、箕輪遺跡出土】

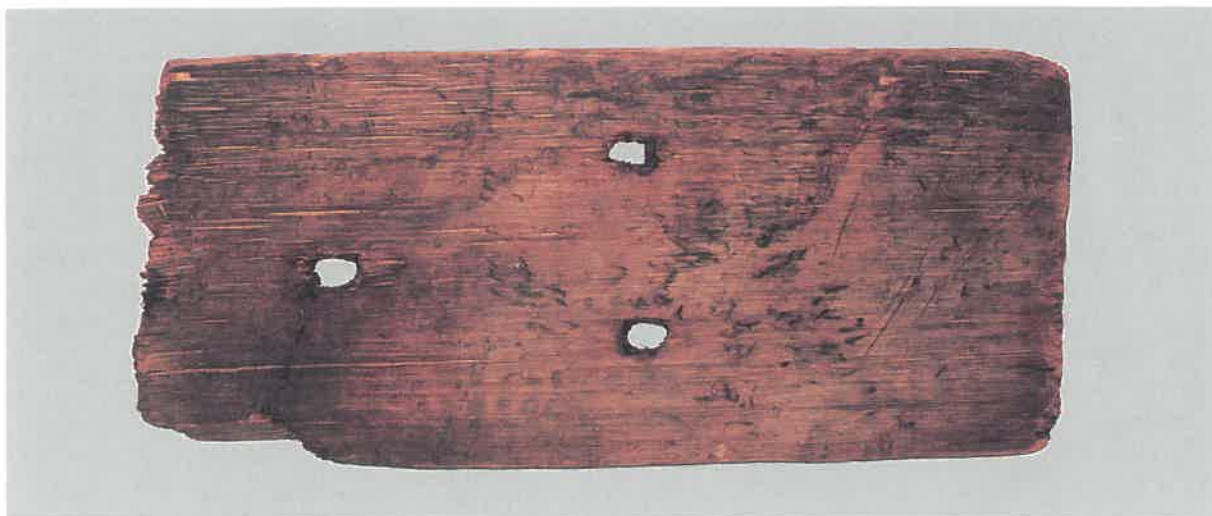
塩ノ井中田の水田下80cm下から出土した。一木づくりで舟先に鋸の跡がみられる。箕輪町郷土館にある同遺跡出土の田舟より時代的にあたらしいものである。他に田下駄、木杭、加工木製品などが出土している。(郷土館展示)



■つ ち 【塩ノ井、箕輪遺跡出土】



■加工木製品 【塩ノ井、箕輪遺跡出土】



■田下駄 【塩ノ井、箕輪遺跡出土】

正確な時代は判然としないが、中世のものとみられる。箕輪遺跡のあたりは、最近まで湿地地帯であったのでこのような農具が必需品であった。(郷土館展示)



■下駄 【塩ノ井、箕輪遺跡出土】

時代的には江戸時代以降のもののみみられる。一木の削り出しにより作られている。写真左は女性用で、右は子供用のものである。作り方から2つは同じ時代のものであろう。(郷土館展示)

■村指定文化財一覧表

名	文化財種類	文化財内容	数	制作年代(時代)	名	文化財種類	文化財内容	数	制作年代(時代)
1 新四国霊場	有形文化財	史 跡	88	嘉永元年(1848)	9 富士塚	記 念 物	史 跡	1	江戸時代後半
2 十一面観音像	有形文化財	彫 刻	1	天文年間(1532~1554)	10 大和泉神社殿及塩守稲荷神社殿	有形文化財	神社建築	2棟	文政11年(1828)
3 大般若経	有形文化財	木版印刷	600巻	明治30年	11 不動明王	有形文化財	彫 刻	3体	江戸中期
4 大宗館文庫	有形文化財	書画、浮世絵版画	500点	江戸初期~明治中期	12 十二神将	有形文化財	彫 刻	11体	文政年間(1804)
5 エドヒカン桜	記 念 物	植 物	1	元文5年(1740)	13 大和泉神社鹿踊り	無形文化財	踊 り	1団体	永禄元年(1558)
6 殿村八幡宮境内樹林帯	記 念 物	植 物	約20本	樹齢数百年前(詳細不明)	14 殿村八幡宮朱印状	有形文化財	古 文 書	9通	慶安2年(1649)~万延元年(1860)
7 恩徳寺大銀杏	記 念 物	植 物	1	樹齢360年	15 火葬蔵骨器	有形文化財	灰種陶器	1	平安時代
8 三十三観音	有形文化財	石像文化財	33体	元禄年間	16 御射山神社(鳥居跡)	有形文化財	史 跡	1	大同4年(809)

文化財所在地図

